

小児急性胃腸炎に対する五苓散の使用経験

医療法人社団洸風会 荒井クリニック 院長 荒井俊秀

キーワード

- 小児急性胃腸炎
- 五苓散
- エキス錠
- アドヒアランス

古来より代表的な漢方薬として知られる五苓散は、急性胃腸炎に対し即効性のある利水剤である。とりわけ、白朮配合の五苓散は、脱水症状を起こしやすい小児への臨床的有用性も高いと想像される。一方で五苓散には特有の味やニオイがあるため、小児に服用させることは困難だが、今回、剤型として錠剤を選択することで、アドヒアランスの向上を認めた。

はじめに

秋から春先にかけて流行するノロウイルスやロタウイルスなどによる感染性胃腸炎は、主に腹痛・下痢、嘔吐、発熱などの激しい症状が短期間にあらわれる疾患である。ロタウイルスは1～3日の潜伏期の後、嘔吐と激しい白色水様便を認めるのが特徴で感染力が強い。ノロウイルスも1～3日の潜伏期の後、嘔吐と下痢に加え感冒症状を伴うことが特徴である¹⁾。

小児は嘔吐や下痢により容易に脱水症状に陥るため、補液を必要とするケースもしばしみられる。現在、感染性胃腸炎などの急性胃腸炎には、一般に整腸剤などによる対症療法が行われるが、強い止瀉薬は体内にウイルスを停滞させることから病気の回復を遅らせる恐れがあり、極力使用しないことが望ましいとされている。

五苓散は代表的な利水剤で、体内の崩れた水分バランスを調整し正常な状態に戻すように働く漢方薬である。嘔吐や下痢に頻用され、小児の嘔吐を伴う疾患では症状が軽度であれば証を問うことなく用いられることも報告されている²⁾。西洋薬のような強い止瀉作用を有しないため、感染性胃腸炎にもしばしば処方される。

しかし、漢方薬には特有の味やニオイがあり、嘔吐が激しい場合など、特に小児には服用させることが難しい。そこで今回、錠剤を選択することによりアドヒアランスが向上し、その効果が確認されたので報告する。

症 例

症例1：5歳、男児

主 訴：嘔吐

現病歴：夕方より嘔気を認め、その後2回の嘔吐があった。夕食はとらずに就寝したが、翌朝より軽度の下腹部痛を認めたため、当院受診。

現 症：体重20kg、身長120cm。腹部に異常は認めなかった。

治 療：食事指導とこまめな水分摂取を指示し、クラシエ五苓散料エキス錠(EKT-17) 6錠/日(分3)を処方した。

経 過：嘔気、嘔吐は夕方には軽快し、夕食は少しとることができるようになった。下痢や発熱は認めず、腹痛も軽快した。

症例2：7歳、女児

主 訴：嘔吐、下痢

現病歴：朝より嘔気があり食欲もなく、そのまま朝食をとらずに登校した。昼前に嘔吐を数回繰り返し、水様便も認めた。発熱は認めなかったが、下腹部痛を伴った。

現 症：体重23kg、身長132cm。腸管蠕動の亢進を認めたが、圧痛は認めなかった。

治 療：食欲がなければ食事は控え、安静を指示した。EKT-17 6錠/日(分3)、ラクトミン製剤配合散2.0g/日(分3)、天然ケイ酸アルミニウム原末2.0g/日(分3)を投与した。

経 過：翌朝より軟便となり、吐き気は軽減し、夕食は全粥をとることができた。

症例3：9歳、男児

主訴：嘔吐

現病歴：夕食に家人と外食し焼肉を食べたが、生肉は食べていない。翌朝より嘔気があり、2回嘔吐した。発熱や腹痛は認めず、家人にも同様の症状を呈する者はいなかった。その後、昼過ぎても嘔気が軽快しないため、当院受診。

現症：体重35kg、身長140cm。腹部はやや膨満していたが、圧痛などは認めなかった。

治療：嘔気時の絶飲食を指示し、EKT-17 9錠/日(分3)を処方した。

経過：その日は嘔気が続き、食欲のない状態が続いていた。しかし、翌日には嘔気は軽快し、上腹部の違和感はあったが、少量の食事をとれるようになった。

考察

五苓散は「傷寒論」「金匱要略」に最初に記載された処方で、水湿内停の病態に広く用いられる。沢瀉、猪苓、茯苓、白朮、桂皮の五つの生薬で構成されており、口渴、小便不利の主症状に発熱、頭痛、めまい、腹痛、下痢、浮腫、水を飲むとすぐ吐逆するなどの症状のいずれかのある者に用いるとされている³⁾。急性胃腸炎は腹痛や下痢を認め、食事摂取困難となり脱水症状を伴うことが多く、補液が必要となるケースがある。とくに小児や高齢者は重症化しやすく注意が必要である。今回の症例では、五苓散の服用1日以内で嘔気・嘔吐、下痢などの症状が改善し、補液を必要とするような重症例はみられなかった。また、副作用と思われる症状もみられなかった。

漢方薬の利尿作用は西洋薬のそれとは異なり、尿量のみならず水分吸収や分布など体内の水分バランスを調整すると考えられている。とくに白朮配合の五苓散は、全身の浮腫が強い場合は利尿作用を示すが、脱水傾向に傾くと水分保持に働くことが報告されており⁴⁾、ともすれば脱水症状を起こしやすい小児の感染性胃腸炎では白朮配合五苓散の方が臨床的有用性は高いと推測される。加えて白朮は補気健脾の薬能をもつ。今回、**症例1**は服用後数時間で、**症例2、3**は服用の翌日から症状が回復した。五苓散には利尿作用だけでなく、白朮・茯苓による消化吸収機能改善作用もあることから、比較的短期間で効果が得られ、早期回復につながったのではないかと考えられる。

また、通常は漢方薬特有の味やニオイにより服用が困難なケースもしばしばみられ、小児への投与に

は砂糖(蔗糖)を混ぜたぬるま湯に溶かしたり⁵⁾、注腸投与²⁾や坐薬⁶⁾にするなどの工夫が必要である。当院でも細粒剤を処方して特有の味により服用ができなかったことを経験している。今回錠剤を選択することで、味やニオイがあまり気にならず、小児でも問題なく服用が可能であった。また、服用時の負担が軽くなるため親にも喜ばれ、アドヒアランスが向上したと思われる。

当院では5歳から本症の治療に五苓散料エキス錠を取り入れ、4日間処方している。しかし提示症例のように概ね2日くらいで症状の改善が見られるため、母親には嘔気・嘔吐、下痢などの症状が改善されれば服薬を中止しても構わないことを伝えている。

まとめ

五苓散は小児急性胃腸炎に対し即効性のある漢方薬である。とくに錠剤は、味やニオイがマスクされることから小児にも服用しやすく、手間がかからないため親にも喜ばれる有用な薬剤である。

表 五苓散料エキス錠の小児投与量

年齢	投与量
5歳～8歳	6T/日(分3)
9歳～13歳	9T/日(分3)

図 五苓散料エキス錠



(写真はクラシエ薬品株式会社ホームページ「漢方優美」より引用)

【参考文献】

- 1) 草地信也：感染性胃腸炎;今日の治療指針: p179-180, 医学書院 東京 2010.
- 2) 福富悌ほか：五苓散による小児急性胃腸炎の治療; phil漢方 28 : p16-17, 2009.
- 3) 一般用漢方処方の手引き: p98-100, 厚生省薬務局監修 薬業時報社 東京 1976.
- 4) 織田真智子ほか：蒼朮五苓散と白朮五苓散の薬理作用の比較検討－利尿作用を中心として－ 和漢医薬学雑誌 17(3): p115-121, 2000.
- 5) 橋本浩：小児の感冒性胃腸症に伴う下痢に対する五苓散の効果について－内服しやすくするための工夫－ 漢方医学 25(4): p178-181, 2001.
- 6) 藤井裕治ほか：五苓散坐薬の乳児感冒性嘔吐症及び乳児嘔吐下痢症への治療効果 漢方医学 19(6): p187-189, 1995.